

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成29年度(2017年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 地域の映像文化を担う人材を育成する

映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2017

(文化庁 平成29年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。2017年度は下記の事業を実施した。

(1) 全国コミュニティシネマ会議 2017 イン横浜の開催

2017年9月8日(金)～9日(土) 会場:横浜市開港記念会館

共催:横浜シネマネットワーク実行委員会(横浜シネマリン、シネマ・ジャック&ベティ)

参加者計:348名

2017年の全国コミュニティシネマ会議は、横浜市で開催した。ヨーロッパのインディペンデント映画館ネットワークをつくるEU傘下の組織「ヨーロッパシネマ」のディレクター、クローデリック・ポワロウ氏、30年間にわたりフランス映画を中心に字幕翻訳者として重要な作品を手掛けてきた寺尾次郎氏をはじめ、多彩なゲストを迎え、多様化する“上映の現在”を考察した。

テーマ:映画の“上映”とは何か。～多様化する「上映」を考える

■講演:ヨーロッパの映画館の現在と未来

クローデリック・ポワロウ(ヨーロッパシネマ)

■上映とは何か。～多様化する「上映」を考える

レクチャー:”上映”を定義する(仮)

岡島尚志(東京国立近代美術館フィルムセンター)

ディスカッション:

大高健志(MotionGallery 代表/popcorn 共同代表)、樋口泰人(boid 主宰/爆音映画祭プロデューサー)、岡島尚志、クローデリック・ポワロウ

[司会]三浦哲哉(映画研究者/青山学院大学准教授)

■プレゼンテーションマラソン”映画都市・横浜!”を中心に

横浜シネマリン、シネマ・ジャック&ベティ、シネマノヴェチェント、ヨコハマ映画祭、横浜キネマ倶楽部、海に浮かぶ映画館、ヨコハマらいぶシネマ、東京藝術大学大学院映像研究科、シネコヤ、シネマ・アミーゴ、鎌倉市川喜多映画記念館、廻り神楽(榎桁一則)(岩手・宮古)

■トーク:映画の世界へ誘う、字幕という仕事

寺尾次郎、田井肇(コミュニティシネマセンター代表理事/シネマ5)

■ディスカッション:あしたの映画館のすがた一統・ミニシアターの20年

原田健秀(岩波ホール)、水野昌光(進富座)、林未来(元町映画館)、木下繁貴(合同会社東風)

[司会]北條誠人(ユーロスペース)

関連企画「祝! 国産アニメーション生誕100年」特別上映 *詳細はFシネマ・プロジェクトに記載

(2) ワークショップ「上映の基本を学ぼう！」

2017年9月7日(木) 会場:横浜市開港記念会館 参加者:38名

「全国コミュニティシネマ会議 2017」の開催にあわせて、新たに上映を始めた人、これから上映を始めようとする人、コミュニティシネマの若いスタッフなどを対象に、“上映の基本”を学ぶワークショップを実施した。

講師:堀三郎(アテネ・フランセ文化センター制作室)、内藤篤(弁護士/シネマヴェーラ渋谷館主)

(3) Fシネマ・プロジェクトの推進

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるための「Fシネマ・プロジェクト」。ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくりと上映者・映写技師育成のためのワークショップ、フィルム上映会を実施した。

■「フィルムでみる・体験する映画 ワークショップと上映会」

2018年2月17日、18日 会場:高崎電気館 共催:高崎映画祭委員会 参加者計81名

1日目:映写ワークショップ(未経験者・初級クラス/経験者・中級クラス) ワークショップ参加者19名

2日目:映画上映(映写室見学)

『ジャズ娘誕生』(1957年/春原政久監督)、『高崎での話』(1951年/RKOパテ社)

ゲスト:大傍正規氏(東京国立近代美術館フィルムセンター)

■フィルム上映会

①「祝！国産アニメーション生誕100年」特別上映

2017年9月9日 会場・共催:横浜シネマリン 参加者計111名

・短篇アニメーション集

『なまくら刀』(1917年/幸内純一)、『漫画 瘤取り』(1929年/村田安司)、『AN EXPRESSION』(1935年/荻野茂二)、
『くもとちゅうりつぷ』(1943年/政岡憲三)、『KUJIRA』(1953年/大藤信郎)、『メロポリタン美術館』(1984年/岡本忠成)、
『頭山』(2002年/山村浩二)

上映前レクチャー:山村浩二(アニメーション作家/東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻教授)

・『太陽の王子 ホルスの大冒険』(1968年/高畑勲)

・『GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊』(1995年/押井守)

②「35mmフィルムでみる映画の世界」(くらべるシネマ/フィルム de ホラー)

2018年2月10日～12日 会場・共催:山口情報芸術センター[YCAM] 参加者計136名

上映作品:『Playback』(2012年/三宅唱監督) 『女優霊』(1996年/中田秀夫監督) 『CURE キュア』(1997年/黒沢清監督) 『東海道四谷怪談』(1959年/中川信夫監督)

関連企画:「作り手と見くらべ」(ゲスト:三宅唱監督)/映写室見学ツアー「映画の背中を見てみよう」

(4)アートマネジメントワークショップ イン 東北

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。2017年度は、気仙沼、石巻、久慈で実施した。

■気仙沼

映画上映会『ミニオンズ』(2015年/ピエール・コフィン、カイル・バルダ)(『なまくら刀』DVD上映)、

①2017年10月21日[土] 会場:気仙沼市立鮎立児童館 入場者54名

②2017年12月2日[土] 会場:気仙沼市立大島児童館 入場者37名

鮎立と大島の児童館で実施した上映会には、2回目ということで、定番化しつつあり、児童館に通う小学生だけでなく、近隣の幼児も親子連れで参加。上映会を開催した各児童館では、子どもたちと相談して、ポスター作りなどの準備を行い、上映会の受付や司会進行を子どもたちが行うなど、映画上映の楽しさを味わうことができた。

■石巻

①2017年11月24日[金] 会場:IRORI 石巻 入場者63名

『わたしは、ダニエル・ブレイク』(2016年/ケン・ローチ)

②2017年12月22日[金] 会場:IRORI 石巻 入場者45名

『シング・ストリート 未来へのうた』(2016年/ジョン・カーニー)

③2018年3月3日[土] 会場:アイトピアホール 入場者208名

『人生フルーツ』(2017年/伏原健之)

昨年に続き、ISHINOMAKI2.0の文化事業担当スタッフや、映画や映像に興味関心のある6名の参加者が、地域の

枠を超えて参加し、上映会の一連の流れを学び、実践することができた。継続して参加している人も多く、上映に関する知識や経験を深めることができた。

■久慈

「みんなの上映会をつくろう」 ワークショップ参加者 12 名 上映会入場者 70 名

1 月 27 日(土)「知る① 映画のしごとと岩手県内での映画上映活動」

講師:吉田広宇(ラヂオもりおか音楽映画祭)、高橋大(「映画の力」プロジェクト)、平松伸一郎(釜石てっぱん映画祭)、猿田ゆう(ウッキープロダクション)

2 月 10 日(土)「知る② 映画のしごと+実践①上映会企画

講師:楡桁一則(みやこ映画生活協同組合)

2 月 24 日(土)「知る③ 地域×映画+実践②宣伝と当日運営」

講師:竹石研二(深谷シネマ)、岩崎ゆう子

3 月 25 日(日)「実践③ みんなで上映会を運営してみよう！」

『ネクタイを締めた百姓一揆』(2017 年/河野ジベ太) ゲスト:河野ジベ太監督

[2] 「映画上映活動年鑑 2017」の作成

(文化庁 平成 29 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

主な内容

I 映画館での上映

[1]概況 [2]都道府県別概況 [3]公開本数など [4]諸外国との比較

資料:講演採録「ヨーロッパシネマ—ヨーロッパ映画に貢献する映画館のネットワーク」

II 公共上映

[1]全国映画祭リスト

[2]公共の映画専門施設(シネマテーク)及び上映事業を行う美術館など

[3]上映事業を行っている公共ホールなど

III 特別調査

東日本大震災と映画上映

東日本大震災の被災地における映画文化の「復興」

楡桁一則氏インタビュー:岩手県沿岸部の上映活動 2011-2018

地域の上映環境の変遷—栃木県宇都宮市

中心市街地の衰退と郊外の風景[映画館]—宇都宮ヒカリ座

IV 台湾のコミュニティシネマ

台北之家・光點台北電影館/光點華山電影館/真善美劇場/台湾国立映画センター/台北金馬映画祭/高雄映画祭/高雄市電影館/シネマ・コンプレックス「MLD シネマ」/府中 15「新北市映画センター/ドキュメンタリー映画館」/台湾の映画館を再び訪れて

V 資料

全国コミュニティシネマ会議 2017 の記録

レクチャー+ディスカッション ”上映”とは何か。多様化する「上映」を考える

・レクチャー ”上映”を定義する(仮) — 映写の始原と映画館文化

・ディスカッション

ディスカッション あしたの映画館のすがた — 続・ミニシアターの 20 年

都道府県別上映施設一覧

[3] 平成 29(2017)年に公開された日本映画の上映素材等調査

(東京国立近代美術館フィルムセンター委託事業)

デジタルで製作された作品をどのように収集し保存するのかを考えるための基礎資料として、「どのような作品が、ど

のような素材で、どのような場所(形)で」、公開されているのかを把握するため、2017年(平成29年)に日本で公開された「新作日本映画」について、上映素材を含めた詳細なリストを作成した。

対象作品

- ・ 公開期間:2017年1月1日～12月31日
- ・ 上映施設(映画館、公共ホール、映画専門施設等)においてスクリーン上に上映された初公開の日本映画
 - (1) 劇場公開作品 …620タイトルを採取
商業映画館で、1日1回、7日以上有料で上映された作品
 - (2) 映画祭及びその他で公開された作品…1279タイトルを採取
映画祭
大学等の修了制作上映会
自主上映

[4]公共施設等デジタル整備に関する調査

(東京国立近代美術館フィルムセンター委託事業)

日本国内における文化会館などの公共施設や独立系映画館などの施設における上映に関するデジタル設備の調査を行い国内の上映施設等における設備面からのデジタル化の進捗状況を調査し報告書を作成した。

対象施設

- (1) 独立系映画館(266館)
- (2) 公立の映画専門施設(19館)
- (3) 映画上映を行っている国内の公共施設(616館)

2. 自主事業

[1] 三陸映画上映ネットワーク事業(シネマメール東北 2017)

2011年5月以来、2017年3月末まで、約7年間にわたって継続してきた「シネマメール東北 東北に映画を届けよう!プロジェクト」は、2017年度末で活動を終了した。この事業を通して、東北沿岸各地で上映者の育成を行い、新たな上映活動を生み出すことができた。これらの活動への支援は「アートマネジメント・ワークショップイン東北」などを通して継続する。

7年間の記録

上映回数:722回

観客数:38,866人

上映作品本数:のべ205作品

開催市町村:岩手県・宮城県・福島県ほか、のべ42市町村

2017年度の上映回数は岩手県28回、宮城県16回、福島県5回の計49回、観客数は、岩手県876人、宮城県2093人、福島県603人の計3572人。(別添レポート参照)

共同開催、現地事務局・実施団体:

岩手県・みやこシネマリー / 釜石シネクラブ

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0(ISHINOMAKI金曜映画館)

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワークほか

後援:日本アカデミー賞協会 支援:芸術文化振興基金

[2] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト関連企画

(1) 「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」

(東京国立近代美術館フィルムセンター共同事業)

フィルムセンターとこどもプログラム実施経験者によるミーティングを重ね、上映プログラムを作成し、上映者用の解説テキスト作りを行った。さらに、広島市映像文化ライブラリー(3/18,21,25)と川崎市市民ミュージアム(3/24,25,31)で、実践上映会を開催した。

■広島市映像文化ライブラリー

上映プログラム

1. NFC 短篇集:いろいろな動物の映画
2. NFC 短篇集:さまざまな手法
3. パンダコパンダ/パンダコパンダ 雨ふりサーカス

参加者のべ160人

上映には学芸員が解説をつけ、「体育デー」や「こねこのらくがき」など、セリフのない作品でも子どもたちの反応は良く、「NFC 短篇集:さまざまな手法」は「ピアノ伴奏付で実施した。

■川崎市市民ミュージアム

上映プログラム

1. NFC 短篇集:いろいろな動物の映画
2. 長靴をはいた猫

参加者のべ188人

学芸員の解説をつけるとともに、短篇集上映後に、マジックロールワークショップと映写室見学を実施。

いずれの会場でも子供連れや映画好きなど、予想を超える参加者を迎えることができた。

(2) 「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

「Fシネマ・プロジェクト」の一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作を、35ミリプリントで巡回。

2017年度実施会場:

仙台短篇映画祭/アニメーション100年関連

川崎市市民ミュージアム/アニメーション100年関連

広島市映像文化ライブラリー 長篇9作品、短篇2作品

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など

フレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA～人間は、どこへいく』、その他、当センターが保有する作品の貸出を行った。

[4] ミニシアター・ネットワーク(シネマ・シンジケート プロジェクト)

(1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

・コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。

(2) 会員館・団体共通「マナー広告」映像の制作

[5] その他の事業

(1) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実など

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかった。(2017年度団体会員数 71←68)

(2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど